

私はまだ志望校や将来の夢がはっきりと決まっていけないので、少しでも視野を広げるきっかけになったらと思い、今回の東京研修に参加しました。そして、実際に普段の生活では体験できないようなことを経験することで自分の進路を考える上で役に立つことをたくさん学ぶことができました。

ディレクトフォース・笹川平和財団夏季プログラムでは、最初に、ベンチャーを興し、今までになかったような義手をつくり出した近藤玄太さんの講演を聞きました。私が驚いたのは、近藤さんのつくる義手は肌色ではないということです。手がないことを“隠す”のではなく、個性として“表現する”というように義手の目的をとらえ、デザイン性やカスタマイズ性にもこだわった義手をつくっているそうです。また、3D プリンターを使うことでコストを削減したり、インターネットで構造を全て公開することで義手の普及を図ったりと様々な工夫を凝らしているそうです。新しいことをやることに対して抵抗はあるけれども、できることからやっていくことでだんだん自信がついてきて実績につながっていくとおっしゃっていたのが印象に残っています。

次に、グループディスカッションを行いました。第 1 クールでは、若松常美さんのお話を聞きました。若松さんは、大成建設に勤めている一級建築士の方で、100m 以上の超高層建物といわれる建物などを建設しているそうです。建物をつくる上で最も重要なのは安全確保で、風対策には特に力を入れているそうです。また、ズレのない建物をつくるには、中心構造部を水平、垂直にする必要があり、常時微調整をすることで精度の高い建物になるそうです。

第 2 クールでは、菅原信夫さんのお話を聞きました。菅原さんは、ロシアビジネスに従事していた方で日本と外国の違いなどを教えて下さいました。日本では最近、大学の 4 年間ではなく、大学院の 2 年間で勉強してきたことを企業が重視するようになってきているとおっしゃっていて、より専門性の高い知識を身につけることが大切なのだと思います。

第 3 クールでは、土居義範さんのお話を聞きました。土居さんは、笹川平和財団でアジアにおける少子高齢化プロジェクトを担当している方で、アジアの 6 か国の高齢化の調査をし、まとめているそうです。高校生のうちから 1 人 1 人がどういう未来にしたいか考えて働きかけていくことで未来は変えられるとおっしゃっていたのが心に残りました。

企業訪問では、私達の班は、外務省へ行きました。担当の方に案内してもらい、記者会見室で集合写真を撮影した後、外務省についての説明をしてもらいました。スペシャルゲストとして、仙台二高出身で実際に外務省で働いている方のお話を聞くこともできました。その方のお話で印象に残っていることが 3 つあります。まず 1 つ目は、外務省では仕事の担当が 2~3 年で変わってしまうということです。お話を聞く前までは、何か自分の担当や

専門があり、その仕事を極めていくのかと思っていて、その方が仕事も円滑に進むと思っていたので、驚きました。しかし、こうすることには、広い分野に渡る外交の仕事を全て知ってもらいたいという意味があると知り、なるほどと思いました。次に2つ目は、とても高いレベルの英語の能力が求められるということです。高校での勉強が分かっている、実際に海外へ行ってみると、全然会話ができなかったとおっしゃっていて、自分の母国語以外の言語でコミュニケーションをとることの難しさを実感しました。そして、今のままでは、全く海外に通用しないと思い、もっと英語の勉強に力を入れていきたいと思いました。最後に3つ目は、入省してから留学のチャンスがあるということです。1人1つの言語及び国を担当し、1年間留学するそうです。社会に出てからも外国で暮らし、学べるチャンスがあるというのはとても良いことだと思います。私は今まで留学にはあまり興味がありませんでしたが、積極的に外国へ行っていたというお話を聞いて、少し興味が出てきました。自分の本当の英語の力はどのくらいなのか知るためにも1度は外国へ行ってみたいと思いました。

OBOGの方々との座談会では、今後の参考になるお話をたくさん聞くことができました。中でも、東大の進路選択については、今まで知らなかったのが驚きました。東大では、1・2年生のうちには全員教養学部で勉強し、その後成績に応じて進路を選択するそうです。他の大学だと1年生のうちから学部ごとに分かれているので、ある程度目指すものを決めておかなければなりません。東大だと実際に大学の勉強をしてみてから自分の将来についてじっくり考えることができるので、とても良いと思いました。

また、高校生ときの勉強方法についても教えてもらいました。私は、運動部で電車通学なので、あまりまとまった勉強時間を確保することができず、どうしたら良いか分からずにいたのですが、同じような状況で生活していたOBの方に聞いてみると、その方は、電車の時間を有効に使っていたとおっしゃっていました。文法書や単語集を取り出しやすいところに入れておき、電車で読んで頭に入れていたそうです。私は、今まで、単語集を見たりはしていましたが、ただ眺めているだけだったので、これからはもっと集中して読み込んで、家でまとまった時間を確保できなくても、すき間時間などで効率良く勉強していきたいと思いました。大学生活や高校時代のことについて仙台二高生だからこそ聞けるようなお話まで聞くことができたので良かったです。

東大見学会では、FairWindの方々にキャンパス内を案内してもらったり、東大のことについて色々教えてもらったりしました。まず最初に、1・2年生が全員通うことになっている駒場キャンパスへ行きました。図書館がとても広く、理系から文系までの様々なジャンルの本が揃っていました。また、パソコンなども整備されていて、自習スペースが充実していました。ワークショップでは、「自分の進路を見つめ直す」という題で2人の東大生のお話を聞き、自分の進路について考えました。私は、将来の夢が決まっていないので少し不安や焦りがあったのですが、そのような人の体験談も聞くことができ、とても参考に

なりました。今すぐ急いで決める必要はないということが分かり、安心しました。「東大を知ろう」のプレゼンテーションでは、学問以外の面から東大について知ることができました。部活動やサークルの多さには驚きましたが、それだけあるからこそ自分の本当にやりたいことがやりただけできるので楽しそうだなと思いました。

また、私は1人暮らしに抵抗があったのですが、東京での1人暮らしの良いところを聞き、少し抵抗が無くなりました。その後、赤門で有名な本郷キャンパスへ行きました。このキャンパスでは、進路選択を終えた学生が専門的な知識を学んでいるそうです。敷地の広さと建物の大きさには圧倒されました。個別相談会では、大学の時間割を見せてもらいながらどのような1日を送っているのか教えてもらったりしました。大学では、自分のやりたい授業を選んでとることができるので、組み合わせ方によっては休みの日をつくることができ、自習時間にすることもできるので、良いなと思いました。一方で、自分で考えて計画し、行動しなくてはならないので大変そうだなと思いました。また、大学の受験勉強や苦手な教科の克服法を教えてもらいました。私は、数学の勉強方法が分からずにいたので、教えてもらったように、まずは例題を何も見なくても解けるようにして少しずつ基礎力をつけていきたいと思います。

模擬ゼミでは、法学部の准教授の方々の講義を受けました。「国境を越える刑事法」という題で過去の事例を用いながら分かりにくいところも噛み砕いて教えてくださったのですが、やはり少し難しかったです。でも、大学ではどのような勉強をしているのかということが分かったので、良かったです。東大は、自分にとっては手の届かないような存在でしたが、実際に見て、お話を聞いてみることで、大学や将来に対するイメージを膨らませることができました。とても貴重な時間な時間でした。

普段接することのないような人々との会話を通し新たなことを学んだり、行ったことのないところへ行き自分の肌で雰囲気を感じたりして、良い刺激を受けた2日間でした。今回の東京研修に関わって下さった全ての方々に感謝し、学んだことを今後の進路選択をはじめとした様々なことに活かしていきたいと思います。